

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2772401291		
法人名	医療法人 美盛会		
事業所名	グループホーム くすのき		
所在地	大阪府枚方市養父東18-30		
自己評価作成日	平成 24年 5月 1日	評価結果市町村受理日	平成 24年 6月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを尊重しながら、外出機会を増やし、イベントも取り入れるように努め、その人らしい暮らしを安全かつ快適に提供できるようにしている。私たちのモットーである「ゆっくり」地域住民と「いっしょに」交流をもち安楽な生活ができるよう支援する事業所を目指し、日々利用者様、ご家族様と職員と協働でQOLが向上するよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772401291&SCD=320&PCD=27
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営する開設後11年目のグループホームです。老人保健施設に併設しており、緊急時や医療ニーズの高い利用者への対応や健康管理面で医療との連携が図れ、利用者や家族、職員の安心に繋がっています。また、利用者の要望に応じて、重度化や看取りにも取り組んでいます。職員は、なじみの関係の中で、利用者との信頼関係を構築し、自由な暮らしを保障しています。2階建てのグループホームは、玄関先に花壇があり、紫陽花や夏にはゴーヤが植えられ、四季を感じる事ができます。2階には談話スペースがあり、リビングや廊下に椅子が置いてあり、利用者は思い思いの場所で過ごしています。居室には出窓が設置され、広く明るいスペースが確保されています。管理者、職員のケアへの意識は高く、法人の研修体制も整っており、常により良いケアに向けて職員一人ひとりが目標を掲げ、利用者本位のケアに取り組んでいます。管理者と職員のチームワークもよく、風通しの良い職場環境の中で一人ひとりが誇りを持ち仕事をしています。長年の積み重ねの中で、利用者一人ひとりの要望や生活歴を丁寧に記録したシートが作成され、家族へ手書きの報告書の送付や病院への通院、晩酌への支援など、個別ケアに繋がっており、さらにスキルアップしてきました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 5月 18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義を職員全体で確認したうえで理念をつくり、常に見やすい場所に掲示し、再確認するようにしている。	事業所理念として『『ゆっくり』地域住民と『いっしょ』に交流をもち安楽な生活ができるよう支援します』を決めています。付随して支援目標9項目も掲げています。理念と目標は、玄関ホールや事務所内に掲示しています。その理念実践のため、今年度の重点目標として『個人を見て、適度・適切な介護』、更に各職員全員の個人別の留意点も文章化していずれも事務所内に掲示し、日常の支援につなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>近隣の公園などに利用者と共に出掛け、近隣住民の方と挨拶したり、声を掛け合ったりしている。</p> <p>地域の文化祭や盆踊り、区民体育祭等に参加したり、地域ボランティアの訪問などもあり、交流を図れるように努めている。</p>	<p>利用者は、天気の良い日に近くの公園へ散歩に出ています。おやつや飲み物等の購入に外出する利用者もいます。その機会に利用者は住民や店の人との交流があり、挨拶を交わしています。職員が近所の清掃行事等へ参加することでグループホームの認知、理解も進んでいます。運営推進会議で地域の行事開催情報も得られ、地域の各種行事への参加、幼稚園、学校との交流、ボランティアの来訪など、地域との交流は進んでいます。また、事業所として何か地域に貢献できる事がないか、同法人の3つの事業所管理者で検討を始めています。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議で地域の代表の方々と話し合っており、廃品回収にも取り組んでいる。地域の老人会等の行事も教えていただき、参加できるものには参加して、地域に向けて理解や支援の方法を発信できればと考えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では利用者の状況や行事の内容を報告し、様々な意見を頂くようになっている。また、家族には記録を閲覧できるようにしている。</p>	<p>定期的に運営推進会議が開催され、事業所からの状況報告や課題提供をし、参加者から意見やアドバイスを得ています。議事録は玄関先にも設置し、家族等来場者にも公開しています。会議を通じて、地域の行事情報が入り、盆踊り、文化祭、体育祭等の参加が実現しています。民生委員の歌のボランティアの来訪にも繋がりました。ここ暫らくは家族の参加が無く、管理者は家族会の開催等を通じて家族の参加を図りたいと検討を進めています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村担当窓口との情報交換に努めている。また、同じ地域内のグループホーム交流会で情報交換を行っている。</p>	<p>毎月2回の事業所の空き部屋状況の報告、会議の通知等で市担当者との連絡、連携は密に行われています。昨年度は、市へ報告するような事故の発生はありませんが、発生した場合にはマニュアルに沿って迅速に報告する体制を整備しています。市内の事業者で『グループホーム交流会』を立ち上げており、地域包括支援センターや市の職員の参加も依頼して連携を図っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修などにより理解を深め、玄関の施錠を含めて身体拘束ゼロに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての研修会を毎年2回実施し、拘束の理解に向けて積極的に取り組んでいます。研修では、言葉遣いなど日常ケアの具体的な内容についても触れています。管理者は、気になる対応があれば、具体的に職員に伝え、職員同士もお互いに気をつけるように心がけています。日中玄関の鍵は、入浴等でフロアの職員体制が手薄になる時間帯以外開錠し、自由な暮らしを提供できるよう取り組んでいます。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修などにより理解を深め、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在のところ十分ではないが、今後学ぶ機会を持ち、何かあれば支援していきたいと考えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には十分な説明を行い、家族・利用者共に理解・納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置するとともに、月に一回介護相談員の受け入れを行っており、利用者・家族が外部者に相談できる体制を整えている。またご意見箱も設置しており、不満や意見、苦情などを自由に表明できるよう配慮している。	3か月ごとに「くすのき便り」を発行し、お花見や誕生会などの行事の様子を伝えています。また、毎月一人ひとりの利用者の様子を「ご家族様連絡便り」に職員、ケアマネジャー、管理者が手書きで記載し郵送しています。便りから、日々の利用者のホームでの暮らしの様子や健康状態が伝わり、家族の安心に繋がっています。ケアマネジャーや職員は、家族の来訪時には必ず意見や要望を聞くようにしています。また、家族の意見や要望が表出しやすいように、家族会の開催や行事への参加を常に働きかけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングなど職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させるよう努めている。</p>	<p>代表者、管理者は、日常的に職員と関わり、個別の面談も行い、職員の声を聞く機会を設けています。また、グループホームの目標は、職員の意見を反映して作成しました。一人ひとりの職員が1年の目標を掲げ、職員室に掲示し具現化に向けて取り組んでいます。職員の得意なことや要望が、ケアに活かされており、職員もケアに誇りを持ち楽しみながら仕事をしています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の職員の話に傾聴し、意見を聞き入れ、働きやすい環境づくりに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内で勉強会・内部研修等を実施し、ミーティングなどを活用して話し合うようにしている。外部研修にも積極的に参加できるよう支援を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣事業所との交流会に参加し、積極的に情報交換を行い、他事業所の良い点を取り入れられるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より予め情報を収集し、その上で本人自身から話しを聴く機会を設け、それを真摯に受け止めることにより、信頼関係を築くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いの場を十分に持ち、不安・要望などを受け止め、関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、グループホームでのサービス提供が適当か否かを判断し、必要に応じて他のサービスを紹介するなどの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、言葉遣いや対応に留意し、支えあう関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人・家族としっかり話しをし、家族に理解していただき、連携・協力しながら本人を支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の品等で部屋作りを行うなど、支援に努めている。	入居前からの生活様式を把握し、馴染みの商店街への買い物や理美容などへの外出を支援しています。また、馴染みの関係を継続するために、定期的に友人へ手紙を出すこと、宗教関係の知人や昔からの友人、家族が自由にホームを訪ね、ゆっくりと利用者とお過ごせるように支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することなく、利用者同士が関わり合い、支え合えるように積極的に声掛けを行い、レクリエーションや創作活動への参加を促し、関係の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族や移られた施設などに連絡を入れ、現況などを確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望に傾聴し、意向を把握した上でファイルを作成し全職員が把握できるようにして、利用者本位のサービス提供を心掛けている。	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いを聞き取り、センター方式のシートを一部活用し、記録に残しています。ファイルを見れば、利用者の特徴や好きなこと、思いや暮らし方について、情報が共有できます。また、日常ケアの中で、できるだけ利用者の声を聞くようにしています。本の好きな利用者と共に、定期的に図書館で本を借りて読書を楽しむ、新聞を食後に読む習慣を大切にする、晩酌にビールを楽しむなど、利用者本位のケアを実践しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報収集に努め、様々な角度から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	予めの情報収集から、或いは日常生活の中から現状把握に努め、ミーティングなどを通じて全体で共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者が自分らしく暮らせるように、本人や家族の意向を十分に確認した上でスタッフで検討し、介護計画を作成している。その遂行状況・効果などを評価するとともに、状況や状態の変化、本人・家族の要望などに応じて見直しを行っている。</p>	<p>ケアマネジャーは家族の協力を得て、利用者一人ひとりの暮らしの状況を丁寧に把握しています。情報はセンター方式の一部を使用したシートを活用して記録に残し、日々のケアに繋いでいます。家族の来訪時には、必ず家族と面談を行い利用者の様子を伝え、家族の要望を聞き取っています。利用者の様子は、毎月便りでも報告しています。介護計画は、毎月開催されるケア会議で話し合わせ、毎月モニタリングの記録を残し、少なくとも6カ月に1回は目標に沿って評価しています。介護計画は家族に説明を行い、同意を得ています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録に記入した上でミーティングにて情報の共有を図り、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>可能な限り本人や家族の要望に応えられるよう、臨機応変な対応を心掛けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性に応じて民生委員やボランティア、自治会等の協力を得ながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関にて適切な医療が受けられるよう支援しているが、他病院での受診を希望されるような場合は柔軟に対応している。	利用者一人ひとりの希望や心身の状態を判断し、在宅生活を継続する視点から、往診にすべて切り替えることなく、近隣の提携医療機関への通院を可能な範囲で支援しています。また、隣接する同法人の支援を受けながら、透析利用者の通院や緊急時の対応も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や異常など相談しながら健康管理を行っている。また協力医療機関の看護師とも十分連携が図られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	密な情報交換により協力医療機関との連携は十分図られており、適切な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を作成し、利用に際して十分な説明を行い、それに対して同意書をいただくようにしている。在宅医療を利用しながら医師、看護師と協働で支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の対応については、入居時や必要に応じて「看取りに関する指針」をもとに家族や利用者へ説明を行っています。また、延命治療等についても話し合い、同意書での確認も行っています。医療法人が母体であり、夜間や緊急時のオンコール体制、隣接する介護老人保健施設との連携もできており、利用者家族の安心に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事故防止に関する勉強会を開催している。またミーティング等で話し合い、情報の共有化を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年に2回消防避難訓練を実施している。また、備蓄は併設する施設に準備している。地域の消防訓練にも参加している。	災害時(火災・地震)マニュアルを作成し、年2回定期的に消防訓練を実施しています。併設施設の本部との合同訓練となっています。管理者は、地域の消防訓練に参加し、協力体制を築いていく努力をしています。水やレトルト食品の備蓄は、併設の老健施設から当施設の地下に備蓄していく予定となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングを通じて職員の意識向上を図るとともに、関わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。	個人情報保護やプライバシーについての学習会を行い、職員同士で言葉遣いや対応などケアの振り返りを行っています。認知症状が重度化する中で、同じ話をくり返したり、暴言や攻撃的な行為がみられる場合があります。職員は、一人ひとりの症状に合わせたケアの重要性や生活歴を把握することで、一人ひとりの人格を尊重したケアに繋がるように、カンファレンス等で話し合い支援をしています。	居室入口の扉の窓が、一部透明なガラスになっています。背の高い方であれば廊下から居室内が視界に入るため、プライバシーの視点から、カーテンを吊るすなど工夫をされてはいかがでしょうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向を最大限に尊重するために、日頃から声掛けを密に行い、話し易い雰囲気作りを心掛けて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など、一人ひとりの身体の状態や思いに配慮しながら、利用者本位の対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理美容店に行っていただくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にそれぞれ役割を持っていただき、職員と共に盛り付けや後片付けを行っている。昼食はできるだけ利用者と同じものを食べるようにしている。 月1回調理日をもうけ実施している。	食事は併設施設の厨房で調理したものが届きます。御飯はホームで炊いています。ホームでの調理はおやつ作りを中心としたホットプレートを使用してお好み焼きやたこ焼き、クレープなど月に1回程度となっています。法人内の厨房で調理している為、栄養管理は行われており、カロリー計算や流動食、とろみ食、治療食などの対応は可能です。献立は決められていますが、利用者の苦手な食材やメニューの場合は、個別で対応しています。利用者は、盛り付けや配膳、片付けなど、可能な範囲で食事の過程に関わっています。食事は、利用者と職員が同じテーブルで会話を楽しみながら食べています。	事業所の方針として、外出やイベント等食事以外の取り組みを重点的に行っています。しかし、食べる事がより利用者の楽しみに繋がるよう、おやつ作りを中心に台所を使う機会や食材に触れる場面をもう少し増やす工夫をされてはいいでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者の状況を確認しながら、食事、水分摂取量が適切に確保されるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて支援しながら、毎食後口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄表を作成し排泄パターン等把握した上で、トイレ誘導等排泄ケアを実施している。また、便秘の方には下剤等を服用していただいている。	排泄の記録を把握しやすいように排泄表を作成し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しています。一人ひとりのパターンを把握することで、誘導方法や時間を確認しながら、自立に繋がった支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量にも十分に注意を払いながら、日中はできるだけ身体を動かすよう促し、ストレッチ体操等を毎日行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回確保しており、シャワーはいつでも利用可能としている。利用者に合った浴槽を提供することも可能である。	入浴は週3回を基準としており、週2回は午前中、週1回は午後と設定しています。利用者からの希望があれば毎日でも可能です。入浴をゆっくり楽しんでもらえるよう、入浴時間は一人ひとりの習慣に合わせて対応しています。菖蒲湯やゆず湯など季節の入浴も取り入れています。リフト浴や特殊浴槽が必要な場合には、併設施設の入浴設備を利用することができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適切な室温の下、利用者一人ひとりの生活習慣や状況に配慮しながら、快適な睡眠が確保できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は詰所にて管理し、食後一人ひとりに渡して服用を確認している。処方内容は職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月お楽しみ会、外出など利用者と相談しながら、できるだけ本人の希望に沿って行えるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの生活習慣や嗜好に合わせて、散歩や買い物、催し等に出かけられるよう支援している。	隣接する老健施設のさまざまな行事への参加以外に、日常的に近隣の公園への散歩や日用品の購入にスーパーへ出かけています。また、外食や初詣、花見、菖蒲見学などの外出行事や、日頃行くことができない他県への工場見学などへも積極的に出かけています。外出は利用者の楽しみに繋がっており、記録にも残しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける際には、本人に財布を渡し、自分で支払いしていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人と一緒にいけるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光など含めて、生活環境には十分配慮し、玄関やフロアには季節感のある作品などを展示したりしている。	玄関先には花壇があり、紫陽花やパンジーなど季節の花が植えてあり、玄関のガラス扉には鯉のぼりの作品を貼り、季節を感じることができます。2階建てのグループホームは、1階2階に居室があり、廊下も広く、2階には談話室もあります。共有空間にソファや椅子を配置しており、利用者同士や職員が自由に語らう場となっています。老人保健施設に併設されたホームのため、施設的な雰囲気は少しありますが、できるだけ家庭的な雰囲気を提供しようと初詣や花見の写真、作品などを展示して工夫しています。明るく掃除が行き届いたホームは全館空調が完備されています。夏場には南に面した壁面にゴーヤを植え、日差しよけにするなどの工夫もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階の談話室などで自由にくつろげるよう配慮しており、独りで過ごされるような場面もよく見られる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	イス、机、これまで使用されていたタンスなど、利用者の好みや馴染みのもを配置しており、居心地の良い環境づくりに配慮している。	居室には出窓があり、洗面台、ベッド、収納庫が設置されています。掃除がいき届いた清潔で明るい居室は、家族が来訪時も宿泊可能な広さが確保されています。入口には、一人ひとりの表札が掛けられており、自宅で使い慣れたタンスや飾り棚、テレビ、椅子などが持ち込まれています。家族の写真や書などの作品、ぬいぐるみや本など、思い出の品々や生活用品が持ち込まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリー構造になっており、廊下、トイレ内には手すりを設置しており、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		